

第4章 地区別計画について

地区別計画の策定・推進

地区別計画について

地区別計画は、地域の特性に応じた福祉保健の課題に対応していくために、地区連合（地区社協）エリアごとに、地域住民の皆さんが主体となって策定・推進する計画です。

地区別計画を作ることで、地域全体の強みや課題、今後必要な取組が見え、地域活動を行う上での道しるべとなります。地区別計画をもとに、地区内の個人や団体などの連携が生まれ、暮らしやすい地域づくりを進めるきっかけになります。

地区別計画推進会議について

地区連合、地区社協などの地域の福祉・保健活動に関わる団体や関係機関が集まり、地区別計画の策定・推進について議論を行う会議です。

各地区で毎年度2～3回開催され、地域活動の現状や地区内の課題解決について、情報共有や意見交換を行います。

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる支援

青葉区は15の地区連合エリアごとに区役所・区社協・地域ケアプラザで「地区サポートチーム」を構成しています。地区サポートチームは、各地区の計画策定・推進を支援します。

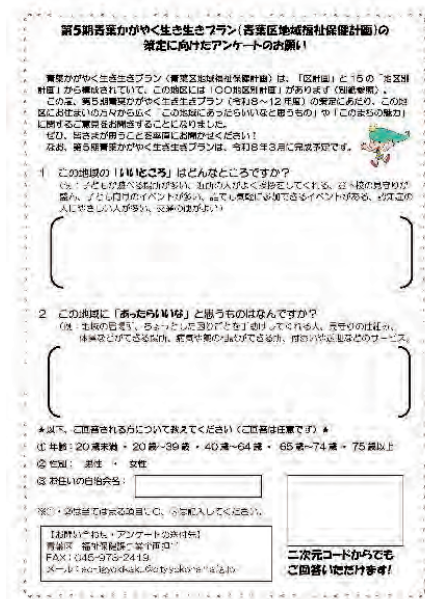
〈地区別計画の推進体制イメージ〉



地域ニーズを把握するための意見募集

第5期計画策定にあたり、令和6年度に住民のニーズを把握するための意見募集を行いました。

地区別計画推進会議のメンバーが主体となって、アンケート用紙配布、茶話会など集いの場でのヒアリング等を実施し、多くの意見が集まりました。



アンケートの例

青葉区の連合自治会町内会(地区社会福祉協議会)エリア

青葉区には15の地区連合が組織されています。地区別計画は、地域の多様なニーズに対応するため、15の地区連合(地区社協)エリアごとに策定しています。



中里地区

中里地区は青葉区の中央に位置し、地区の東側に住宅地が広がり、また農地の利用も多い地域です。地域を住み良い環境にすることや人々の交流をモットーに、学校や施設と協力しながら、7つの自治会(鉄町内会・黒須田自治会・大場町一心会・やよいが丘自治会・禅当寺自治会・あざみ野白ゆり自治会・みすすが丘自治会)が様々な活動を続けています。イベントや防災訓練等に担い手として参加する住民が増え、住民同士の交流、親睦や住民の輪が発展し、次の地域活動へと広がっています。



地区内の町丁目 鉄町、黒須田、みすすが丘、大場町、市ヶ尾町(一部)

第4期計画の振り返り

- 伝統行事などの取組に近隣の学校が協力してくれている。
- 行事を通じて担い手として参加する子どもが出てきた。
- 地域行事の参加者が地域の担い手になりつつある。
- 情報共有のデジタル化を進め、次世代の担い手につなげていくことが必要。
- ファミリーウォーキング等のイベントが様々な団体や多世代交流の機会になった。今後は団体間の結びつきも深めていきたい。
- 誰とも繋がっていない一人暮らしの高齢者などに対して、アプローチすることが必要。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、青少年指導員、スポーツ推進委員、消防団、よりそい・あおば(ボランティア団体)、緑の郷(特別養護老人ホーム)、横浜あおばの里(介護老人保健施設)、横浜シルバープラザ(介護老人保健施設)、地域療育センターあおば、親と子のつどいの広場 WITH

担当地域ケアプラザ: 大場地域ケアプラザ、すすき野地域ケアプラザ

地域で行われている活動



連合スポーツ大会



老人会芸能大会



ファミリーウォーキング

めざしたいまちの姿

みんなで支えあい、 ふるさととして愛されるまち“中里”

目標1 みんなが助け合い、協力できるまち

取組

- 伝統行事や地域活動を通して、すべての世代が地域への愛着を深める
- 若い世代や地域の情報が届きにくい人にも地域活動を知ってもらえるようにPR方法を工夫する
- 防災・防犯の取組を通じて、住民の意識を醸成し、つながりを深めていく
- とおり近所の交流を深め、災害時の助け合いにつなげる

目標2 地域力を高める人が育つまち

取組

- 若い世代が地域活動やボランティア活動を始めるためのきっかけや機会をつくる
- イベントや行事を通じて、一緒に地域活動をする人を増やしていく
- 伝統行事を継続していけるように、地域の担い手を育成する仕組みをつくる
- 活動団体間の結びつきを深め、多世代の交流や活動の拡大を図る

目標3 高齢者や障がい者が生き生きと暮らせるまち

取組

- 高齢者施設等と連携し、地域ぐるみで介護予防や生活支援などに取り組む
- 高齢者の居場所(シニアサロン・シニアカフェなど)での相談・見守り体制をすすめる
- 芸能大会やお花見会・軽スポーツなど老人クラブの活発な活動を支援していく
- 様々な場で障がい者や認知症を理解する機会をつくる

目標4 安心して子どもを育てられるまち

取組

- 子育て世代を地域で見守り、多世代が交流できる場づくりを継続していく
- 登下校の見守りを継続し、子どもとふれあう機会を増やす
- 学校とのつながりを大切にし、協力して活動を行っていく
- 地域行事に親子で参加して、一緒に地域を盛り上げる経験をしてもらう

中里北部地区

中里北部地区は、新しく住宅開発された地域と古くからある地域とが混在しています。公園も多く、寺家町周辺では、田園風景も見られ、緑豊かな地域です。地域の活動には、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が大勢参加し、取組が継続しています。

また、地域ケアプラザを拠点として、子ども、高齢者、障がい者などを対象とした活動が盛んです。ちょっとした困りごとを地域のボランティアでお手伝いする「ちょこボラ」(第2期～)、地域全体で見守りの輪を広げる「気づきの和連絡会」(第3期～)などを通じ、身近な地域で支え合える関係づくりが進んでいます。



地区内の町丁目

鴨志田町、寺家町、たちばな台一丁目、たちばな台二丁目、成合町

第4期計画の振り返り

- コロナ禍の後、若い世代も企画から協力し、時代の変化に対応した新しいやり方を取り入れながら、お祭りなどの行事が盛大に復活した。
- マラソン大会等の地域行事に子ども達や大学生が多く参加し、活躍してくれた。
- ちょこボラ、ミニデイサービス、食事会などをやり方を工夫しながら継続し、住民同士で見守り、支え合っている。
- 気づきの和ポストを設置し、住民の声を拾う取組が始まった。また、気づきの和通信「ごきげん」の発行が始まり、気づきの和連絡会の取組や地域の良いエピソードを地域に広く発信した。
- 時代の変化に合わせた新しいニーズに対応しながら、住民一人ひとりがまちづくりの一員として主体的に活躍する地区にしていきたい。



推進会議の主なメンバー

連合町内会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、友愛活動員、青少年指導員、スポーツ推進委員、家庭防災員、環境事業推進委員、PTA、トゥギャザー、ひろがりサロン、かも☆ん、ちょこボラ、森ノオト

担当地域ケアプラザ：鴨志田地域ケアプラザ

地域で行われている活動



どんたく



スポーツフェスティバル



バス旅行

めざしたいまちの姿

一人ひとりが地域づくりのために 行動（考えて動く）し、 安心して住み続けられるまち

目標1 子どもから高齢者まで、それぞれが地域で役割を持つ場を作ろう

取組

- 一人ひとりが地域のためにできる“ちょっとした”役割を考えてみよう。
- 多くの人が地域活動に参加しやすくなるよう“きっかけ”づくりをしていこう。
- 小学生や若い世代にお祭りの企画から関わってもらうなど、多世代が協力して地域活動を盛り上げていこう。
- 寺家ふるさと村や地区内の大学などのまちの宝を活用して地域活動を広げていこう。

目標2 地域全体でつながり、ちょっとした変化に気づいて、共に話し合おう

取組

- 周りの変化に気づけるよう、日頃からあいさつを大切にすることで、地域全体でつながっていこう。
- 子育てや介護などの悩みを住民同士で気軽に相談できる場を作っていこう。
- 学校や企業などで「認知症サポーター養成講座」を継続しながらも、さらに地域全体で認知症の方に対する理解を深め、見守りの視点を広げていこう。
- 気づきの和連絡会*や気づきの和ポストなどを活用して地域の中で気づきを共有し、話し合っていこう。
- 障がいのある方などにも防災訓練や地域活動に参加してもらい、協力や助け合いの機会を作っていこう。

目標3 時代の変化に合わせたやり方を取り入れながら活動していこう

取組

- 回覧板や掲示板による既存のやり方に加え、SNSなどのICTによる新しいやり方も取り入れながら、地域活動を多くの人に知ってもらおう。
- 様々な世代が主体的に参画できるような地域活動の運営をしていこう。
- 仕事や子育てと地域活動が両立できるよう、行事への参加の仕方、会議の持ち方などを工夫していこう。

*気づきの和連絡会：誰もが見守り、見守られるまちを作るため、3か月に1回、自治会・町内会、地区社会福祉協議会、民生委員、小中学校、PTA、大学、病院、薬局、企業、NPO、ボランティア団体、障がい者施設、地域ケアプラザ、区役所などが集まり、情報交換や話し合いを行う連絡会

市ケ尾地区

市ケ尾地区は青葉区の南東に位置し、都筑区に隣接しています。地区内には区役所、警察署、消防署、税務署、区社会福祉協議会等があり、青葉区の官庁街としての顔も持っています。地区活動ではお祭りや運動会といった行事の他に、高齢者サロン、子育てサロンなどが盛んであり、地域のつながりづくりの工夫も始まっています。また、地区内にある学校等と協力などしながら、若い世代も含めた地区活動の展開がみられます。



地区内の町丁目 市ケ尾町（一部を除く）

第4期計画の振り返り

- 高齢者の見守りのための研修等を通して、民生委員・児童委員、友愛活動員、保健活動推進員等の相互つながりが深まった。
- 地震の時に、「いっとき避難場所」に集まる訓練を行い、子どもたちが避難場所の位置を覚え、地域との顔のみえる関係性をつくることができた。
- 民生委員、自治会が要援護者の把握をしているため、ふだんの見守り活動にもつながっている。
- 介護予防の場に参加している人は健康づくりができていますが、参加しない人、情報を知らない方へのアプローチが必要。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、中途障害者地域活動支援センター青葉の風、ボランティア団体、あおばコミュニティ・テラス、青葉区子育て支援拠点 ラフールサテライト、親子のひろば はいいろ

担当地域ケアプラザ：ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

地域で行われている活動



防災訓練



ふれあいの会



お祭り(夏まつり)

めざしたいまちの姿

みんなで地域のつながりを深め、 楽しくイキイキと暮らせるまち市ケ尾

目標1 一人一人がつながって、誰もがはつらつと暮らせる街に!

取組

- お祭り・盆踊り・十夜講*などのイベントで地域活動を手伝ってくれる若い世代につなげる
- あいさつ、声かけでご近所同士のコミュニケーションを深める
- 住民が参加できる地域の居場所をつくる
- 幅広い世代に情報が届くようSNS発信も活用する

目標2

みんながつながって、高齢者や障がいのある方、 子育てファミリーに優しい街に!

取組

- 地域に住む誰もが参加できるイベントを開催し、交流する
- 子育て世代(親世代、こども世代)のつながりを深め、機会を増やす
- 「いちがお気づきのめ」の活動を通して一人一人が地域に関心を持ち、「見守り 気づき」の目を増やす
- 地域に住むみんなが、いつでも一緒に考え助け合う関係性を作る

目標3

日頃からつながって、誰もが安心して暮らせる街に!

取組

- 地域団体間の情報共有の機会をつくり、相互のつながりや地域での交流を強める
- ご近所などの小さい単位から地区全体まで、こまやかに地域活動の魅力を発信する
- 防災・防犯の情報伝達について、これまでよりも更に普及を目指す
- 学校と連携して、子ども達を含めた多世代の防災・防犯の意識を深める

※十夜講:毎年11月30日に開催されており、祖先や神仏の供養のために「双盤念仏」が行われています。(無形民俗文化財)
上市ケ尾町内会ホームページ参照

上谷本地区

上谷本地区は、もえぎ野・柿の木台・みたけ台の3町内会で構成されています。町内会や地区社会福祉協議会をはじめとした多くの関係団体が、互いに協力しあいながら、長年にわたり地域行事やイベントを実施しており、住民同士の交流と理解が深まりました。また、地域の関係団体が連携した見守り活動を積極的に推し進め、つながりや支えあえる地域づくりが進んでいます。



地区内の
町丁目

もえぎ野・柿の木台・みたけ台・上谷本町

第4期計画の振り返り

- 「柿の木台番地の会」「みたけ台番地の会」「もえぎ野情報共有方式」など小規模単位で地域情報の共有を進めた結果、ご近所同士の助けあいの意識が高まった。
- ご近所同士の気づきや見守りあいを浸透させるために「気づきの種まき」の活動が始まった。
- ふれあい食事会では地域の福祉事業所の協力を得て、送迎を実施したことで参加者が増えた。また、参加者同士の交流や高齢者が地域とつながるきっかけになった。
- 掲示板や回覧板とSNSを併用し幅広い世代に地域情報を発信し、共有をすすめた。
- 社協だよりは、全戸配布と地域の施設にも配架を依頼し活動の広報に努めた。
- 地域の小・中学校との連携が深まり、イベント等での交流促進や生徒のボランティア活動への参加につながった。



推進会議の主なメンバー

地区社会福祉協議会(連合町内会、単位町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員、老人クラブ、子ども会、地区社協ボランティア会、上谷本ふれあい食事会、もえぎ野ふれあいの樹林愛護会、子育て広場「すくすく」、青葉ふれあい見守り事業上谷本連絡会)

担当地域ケアプラザ:もえぎ野地域ケアプラザ

地域で行われている活動



ふれあいサロン



子育てひろば「すくすく」



地域防災拠点防災訓練

めざしたいまちの姿

ご近所同士のつながり・支えあい・ きずなを深めるまち

目標1 住民同士の交流とつながりを深めお互いに支えあおう!

取組

- 子どもから高齢者まで多世代が参加できる活動や居場所が充実し、誰もが地域とつながる機会をつくる
- 地域の学校や施設との交流と連携を進め、相互理解をさらに深める
- 「気づきの種まき」の活動を通じて、身近で困っている人に周りの人たちが気づきあい、安心して暮らせる地域をつくる
- 気軽に地域活動に参加できる仕組みを作り、次世代の担い手育成に努める

目標2 防災、減災、防犯意識を高め、安心安全なまちづくりに努めよう!

取組

- 日頃から小さい単位でつながり、いざというときに助けあえる顔の見える関係づくりを行う
- いろいろな関係機関と連携し防災、減災、防犯について学びあえる研修を開催する
- 災害時に地域ぐるみで要援護者(高齢者や障害者等)の支援ができるような取組をすすめる
- 地域防災訓練の内容を充実させて、多くの住民が参加しやすく実効性のある訓練を実施する
- 地域の学校と交流をはかり有事に協力しあえる関係性をつくる
- 防犯に有効な対策の共有・啓発を行い、防犯に即効性のある情報を発信し、防犯意識を高める

目標3 誰もが地域情報を共有できるよう分かりやすく届けよう!

取組

- 地区社協のリーフレットを作成し活動を周知する
- 地域イベントの際に、地区社協や町内会、民生委員、子育て支援など地域の福祉団体の活動をPRする
- 社協だよりや回覧板・掲示板の内容を工夫し、誰もが理解できる地域情報を住民に広く届ける
- 高齢者サロン等でスマホ教室などを開催することにより、デジタル情報に強い地域を作る
- 地域情報はSNS等を活用しリアルタイムに配信できるよう、情報のネットワークづくりをすすめる

谷本地区

谷本地区は、エリアの北部に田園都市線「藤が丘駅」と国道246号線が東西に走り、東名高速道路「横浜青葉インター」があるなど、主要な交通手段が身近に存在しています。各自治会町内会で防災訓練を積極的に行い、「大丈夫手ぬぐい」の普及啓発をしています。また、身近な地域で新たなつながりができるように高齢者サロンや子育てサロンを実施しています。各世代に合わせた情報発信にも力を入れています。



地区内の町丁目 梅が丘、下谷本町、千草台、藤が丘一丁目、藤が丘二丁目

第4期計画の振り返り

- コロナによって人との交流がなくなったことにより、つながりの大切さを感じた。
- 高齢者の方も地域のイベントに参加しやすいように、体育祭で敬老席を設置した。
- ちょっとひと休みができる「みんなの椅子」を設置し、『優しいまちづくり』を進めることができた。
- 定期的に福祉教育を開催し、福祉に関する理解・啓発が進んだ。
- いざという時のために、あいさつなどの近所づきあいや、「大丈夫手ぬぐい」の活用などを進めていきたい。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、連合子ども会

担当地域ケアプラザ：もえぎ野地域ケアプラザ

地域で行われている活動



みんなの椅子



連合体育祭



中学校での福祉教育

めざしたいまちの姿

誰もが地域のつながりを深め、 お互いに助け合える優しいまち

目標1 つながるきっかけを増やしていこう!

取組

- 地域行事や、ボランティア活動に中学生や若い世代が積極的に参加できるように、呼びかけていこう
- 転入者や子育て世帯に声かけをしながら、つながりのきっかけを作っていこう
- 様々な世代の人たちに関心をもってもらえるように、子ども向けの内容も充実させた広報紙の発行を通じて、情報発信を進めていこう
- 「三世代交流」の場として連合体育祭に敬老席を設け、地域のつながりを広げていこう
- 「地域であったらあいさつをしよう」という気持ちを大切に、日頃から各自できる範囲での「あいさつ運動」を続けていこう

目標2 見守り・付き合いを一歩進めていこう!

取組

- 引き続き「みんなの椅子」の設置を進めていこう
- 地域活動(夏祭り・防災訓練・清掃活動等)を通して、住民や団体同士の横のつながりづくりを進めていこう
- サロンでの体操、歌、ゲーム等の活動を通じて、心と身体の健康づくりに取り組んでいこう
- 商店会やスーパー、コンビニ等との連携を図り、地域とのつながりを深めていこう
- 認知症の人や障がい児・者が暮らしやすい地域にするために、交流の機会や、福祉教育を通じて理解啓発をしていこう
- 子ども、高齢者、障がい児・者、外国籍の方等への見守りの輪を広げていこう

目標3 災害時に誰もが安全に避難できるように協力し合っていこう!

取組

- 地震・水害・火災が起きた際の避難方法等を周知していこう
- 高齢者や障がい児・者、乳幼児などの要援護者が安全に避難できるように日頃から、サロンやランチ会等、各種事業を通じて情報発信をしていこう
- 安否確認の取組である「大丈夫手ぬぐい」(手ぬぐい・マグネット)の掲出を含む、防災訓練を定期的に行っていこう

恩田地区

恩田地区は青葉区の南西部に位置し、豊かな緑、丘陵、田園等、のどかな里山風景が広がっています。恩田連合自治会は、地域範囲・世帯数の増加に伴い、昭和62年に現在の青葉台連合自治会と発展的分割を行い再編成され、発足しました。現在は、22単位自治会（令和8年3月時点）により、構成されています。地区内では、自治会、民生委員・児童委員協議会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、子供会等、関係団体が協力して、見守りや防犯防災に注力する等、誰もが「安全・安心」に暮らし、住みよい地域と実感できるよう、さまざまな活動を活発に行っています。



地区内の町丁目

あかね台一丁目、あかね台二丁目、桜が丘（一部）、恩田町、桂台一丁目、桂台二丁目、田奈町、松風台

第4期計画の振り返り

- 「支え合いカード」や「やすらぎ食事会」を通じて、見守り活動を実施した。
- 防災・防犯の意識を高めるために、新たに2自治会合同での防災訓練や区民交流センターまつりで防犯の講話を行った。
- 「福祉と文化の集い」の開催を通じ、学校との連携を大切にしなが、地域に愛着を持つきっかけになった。
- 認知症の方が安心して暮らせる地域を作るために、自治会や中学校にて講座を実施し、認知症サポーターを育成した。
- ラジオ体操やウォーキングの活動を通じて、健康を促進した。
- 地域や様々な分野の団体、各施設がお互いを知り、信頼関係と横のつながりをつくることの大切さを推進会議で再確認した。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、食生活等改善推進員、環境事業推進委員、老人クラブ、もみじ保育園、MIWAあかね台光の子保育園、あかね台中学校、田奈小学校、社会福祉法人あおばの実（障がい者団体）、青葉消防団

担当地域ケアプラザ：恩田地域ケアプラザ

地域で行われている活動



やすらぎ食事会



スマホ寺子屋



子育てひろば「おかあさんといっしょに」

めざしたいまちの姿

「地域を愛する気持ち」を大切にし、 お互いを支えあうまち

目標1 地域活動への参加のきっかけ（機会・場）をつくろう

取組

- 自治会のお祭りやグラウンドゴルフ大会など誰もが参加できるイベントを開催し、交流する
- eスポーツを通じて、多世代で楽しく交流する
- 公園清掃やイベントなど気軽に地域活動に参加しやすい場をつくる
- 「やすらぎ食事会」などの開催を通じての参加の場を作る。また地域で開催されている子育てサロンの情報を発信する
- イベントを掲示板やチラシ、SNSなど多様な手段でPRする
- 恩田地域ケアプラザや学校、保育園、公園など、施設を活用して交流を図る

目標2 団体同士の横のつながりを強めよう

取組

- 自治会や各団体、施設がお互いの活動について知るために、会議やサロンの場などで情報交換を行う
- 身近な話し合いの場を活用し、顔の見える関係をつくる
- 地域で活動している小さな団体を知り、応援する

目標3 地域での見守りや地域活動を通じて、誰もが安心・安全に暮らせる地域にしよう

取組

- ご近所同士で気軽にあいさつをしよう
- 住民の防犯・防災の意識を高めるために、防災訓練や防災拠点連絡会議、「支え合いカード」等の取組を進めていく
- ウォーキングやラジオ体操などの取組を行い、元気な高齢者が活躍できる場をつくる
- 「福祉と文化の集い」などを通じて、学校・保育園・地域がお互いの関係を大切にして、福祉啓発や地域を愛する気持ちを育む機会をつくる
- 認知症サポーター養成講座やキャラバンメイトの活動を通じて、認知症に関する理解を深める
- 「終活セミナー」や「エンディングノート」を通じて、これからの暮らしを考えるきっかけをつくる
- 地域イベントや恩田地域ケアプラザ事業などで福祉や障害についての啓発活動を行い、障害理解を深める

青葉台地区

青葉台地区は青葉区の南部に位置し、町名に樹木の名前が多く使われている閑静な住宅街と、青葉台駅を中心とした活気ある商業地区とで構成されています。地区内には2つの地域ケアプラザをはじめ、高齢者、障がい者、子ども等に関する福祉施設が多いことも特徴の一つです。連合自治会や地区社会福祉協議会を中心に、商店会や各種団体・学校・企業等と連携した活動が活発で、住民同士の交流も盛んに行われています。



地区内の町丁目

青葉台一丁目、青葉台二丁目、榎が丘（一部）、桜台、さつきが丘、しらとり台、つつじが丘、若草台

第4期計画の振り返り

- 福祉まつり、焼き芋会等には子どもを含めた多くの地域住民が参加し、地域のつながりが深まった。
- 青葉台地区について話し合う「支えあいネットワーク」に新たな団体が加わり、ネットワークが広がった。
- 認知症の方を地域で支える仕組みとして、住民主体の認知症カフェ、認知症サポーター養成講座等の取り組みが進んだ。
- 地区内の企業、商店、学校と連携して地域行事を盛り上げることができた。
- 障がいや認知症等についてもっと理解し、交流していきたい。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青葉台南商店会、青葉台商店会、桜台商店会、地域子育て支援拠点ラフル、消防団、あおば地域活動ホームすてっぷ、障がい者後見的支援室ほっぷ、ボランティアコーディネーター、粋生きクラブ、キャラバンメイト連絡会、しらとり台公園プレイパーク、青空保育ぺんぺんぐさ、ゆめポケット

担当地域ケアプラザ：さつきが丘地域ケアプラザ、青葉台地域ケアプラザ

地域で行われている活動



福祉まつり



認知症カフェ



スマホ教室

めざしたいまちの姿

みんなが活躍し、 ふれあいが深まるかがやくまち

目標1 顔の見える地域コミュニティをつくろう!

取組

- 各自治会のおまつり、福祉まつり、焼き芋会などの地域行事を開催し、参加することで、世代の垣根を超えて子どもから大人まで顔見知りになる
- 青葉台地区支えあいネットワーク*を通して、地区内で活動する団体同士が情報交換を行い、課題や今後の方向性を共有することで横のつながりを作っていく
- 地域清掃・花植えや防犯パトロールの活動を通し、地域住民全体で綺麗で安全な青葉台地区を維持していく
- 企業、商店会、教育機関と連携してイベント・行事を実施していくことで、まちの協力者を増やす

目標2 すべての住民を地域で温かく見守っていこう!

取組

- 日頃から住民同士で挨拶をし、つながっていくことで、困りごとを抱えた時、周りで気づけたり、本人が発信できるようにしていく
- 子どもから大人まで世代を超えて住民同士が交流し、地域で見守り支えていく(ふれあい広場、子育て広場等)
- 防災訓練に参加することにより、災害時に住民同士で助け合う体制を作っていく
- 地域の中で、認知症の高齢者や障がい者への理解を深める機会を作る

目標3 地域情報をより多くの住民に伝えていこう!

取組

- チラシを子ども達に作ってもらうなど、多くの方に地域活動に興味・関心を持ってもらえるよう、回覧板や掲示板などによる広報のやり方を工夫する
- 活動内容が一目で分かるよう、のぼり旗などを利用し、誰でも参加しやすくする
- 青葉台連合のホームページを活用し、各自治会やケアプラザなど地区内の様々な情報を若い世代、子育て世代にも分かり易く伝えていく
- 青葉台地区支えあいネットワークの活動の様子を地域に情報発信していく

*青葉台地区支えあいネットワーク:青葉台地区で活動する各種団体、委員等が年に数回集まり、それぞれの情報交換、地区の課題・今後の方向性の検討、特定のテーマに関する勉強会等を行う場。ネットワークの様子は「青葉台地区支えあいネットワーク便り」によって定期的に住民へ発信している。

奈良地区

奈良地区は青葉区の西に位置し、町田市と隣接しています。地形の起伏が多く、青葉区内でも有数の緑が多い自然豊かな地域です。住民の交流を通じて地域の絆を深めるようにと、春まつりや夏祭り等のイベント、グラウンドゴルフや高齢者サロン等の地域活動が活発に実施されています。また、奈良中学校、奈良小学校、奈良の丘小学校をはじめ学校施設も多く、学園地域としての一面もあり、中学生も地域の一員として共に活動しています。



地区内の
町丁目

すみよし台、奈良町（奈良北地区を除く）、奈良一丁目、奈良二丁目、奈良三丁目、奈良四丁目、奈良五丁目

第4期計画の振り返り

- 各種団体と連携して、定期的にバスハイク、グラウンドゴルフ、ウォーキング等を実施し、住民、世代間の交流を深めることができた。
- 行事カレンダーの全戸配布や事業の掲示等により積極的に情報発信をおこなった。
- 移動が難しい方のために、すこやか会の送迎に地区内の施設の協力を得ることができた。
- 子育て支援ネットワーク連絡会に参画し、地域内の子育て支援関連団体との情報交換を進めることができた。
- 定期的な防犯パトロールをPTAと連携し、子どもの安全を見守っている。
- 小中学生との交流を行う中で、事業の周知にインターネット活用の必要性を感じた。



推進会議の主なメンバー

地区社会福祉協議会(連合自治会、単位自治会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、青少年指導員、スポーツ推進委員、奈良地域ケアプラザ)

担当地域ケアプラザ:奈良地域ケアプラザ

地域で行われている活動



春まつり



すこやか会



グラウンドゴルフ

めざしたいまちの姿

みんなにやさしく活力のあるまち

目標1 親しみの持てる地域コミュニティをつくろう!

取組

- すべての住民が様々な交流を通じて、お互いを尊重し支え合える地域を目指していく
- 地域での「あいさつ運動」を推進し、気軽に声をかける関係づくりを進めていく
- 「行事カレンダー」等を通じて、地域のイベントや暮らしの情報を発信していく
- 「ウォーキング」で公園や寺社をめぐるなど地域の歴史に触れながら”地域への愛着”をさらに深めていく
- 「グラウンドゴルフ」「バスハイク」を通じて、世代交流をより深めていく

目標2 高齢者の交流を活発化させよう!

取組

- すこやか会・バスハイク・サロン「奈良でちゃちゃ」などを通じて、地域の高齢者が交流できる機会をつくる
- 老人クラブなどと連携し高齢者が地域で活躍できる機会をつくる
- 「ウォーキング」など健康寿命を延ばす取組をしていく
- 「ウォーキング」に奈良の歴史を取り入れるなど、新たな参加者を増やす取組をしていく
- 自治会・老人クラブなどと協力し、高齢者が孤立しないように見守りや声掛けをしていく

目標3 「地域の子ども」という視点で、子どもの育ちを応援しよう!

取組

- 子どもが楽しめる企画を子どもと一緒につくっていく
- 学校と連携をして、地域の一員である子どもの声を聴く機会をつくる
- 「防犯パトロール」などの活動を通じて、学校・PTA と連携して、子どもの安全を守っていく
- 子育て関連団体(PTA・子ども会・子育てサークル・おやじの会等)が、地域でより力を発揮できるように、横のつながりづくりを進めていく
- 地域の子育て世代にも情報を発信するため、インターネットを活用していく

奈良北地区

奈良北地区は青葉区の北西部にあり、1971年に入居が始まったUR都市機構の賃貸住宅です。連合自治会や地区社会福祉協議会が中心となり、夏まつり、サロン、福祉バザー等の活動を長く続けています。初期に入居した子ども世代が巣立ち、現在は高齢化率(65歳～)が50%以上を占めています。お互いが助け合い、楽しく安心して住み続けられる団地を目指しています。



地区内の町丁目 奈良町(一部)

第4期計画の振り返り

- 若い世代や外国人が少人数だが地域活動に参画している。
- 読みやすい広報・ポスターを作り、イベントの参加者が増えている。
- イベント参加が外出・つながり・話す機会・自治会加入のきっかけになっている。
- 外国語版ゴミ出し案内の作成やイベント設営の外注化など、時勢に沿った取組ができています。
- 防災の取組がコロナ禍で減ったままになっている。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、家庭防災員、環境事業推進委員、老人クラブ、防犯指導員、ボランティア団体、UR都市機構
担当地域ケアプラザ：奈良地域ケアプラザ

地域で行われている活動



夏祭り



ふれあいサロン



グラウンドゴルフ大会

めざしたいまちの姿

世代や文化をこえて、 お互いに助けあい、 楽しく安心して暮らせる団地

目標1 子どもから高齢者まで、緩やかなつながり・交流をつくろう!

取組

- みんなが気軽に笑顔であいさつし、声をかけあう
- 日ごろの活動や行事に誘い合い、お互いを知る
- 高齢者や外国人が参加しやすい場を作る
- 趣味や特技を生かした交流のきっかけを作る

目標2 若い世代や転入者に声を掛け、地域の活動者を増やそう!

取組

- 転入者へ団地内のスポット・居場所や団体活動を紹介する
- 近隣の学校・大学等と連携した取組で地域活動者を増やす
- WEBやSNS等による若い世代向けの声掛けツールを作る
- 新しいサークル活動を自治会・地区社協・UR都市機構を含めた団地全体で支援する

目標3 住民や団体の連携・分担で、災害時も含めた安心をつくろう!

取組

- 定期的に活動団体の情報交換・共有ができる場を作る
- 日常の挨拶や活動を通じて、自治会・地区社協・UR都市機構を含めた団地全体で緩やかに高齢者等を見守る
- 高齢者が多い団地の特性に合わせた防災活動を学び、取り組む
- 奈良小地域防災拠点と連携・分担した防災活動に取り組む

めざしたいまちの姿

誰もが地域とつながり

「ここに住んで良かった」と思えるまち

目標1 地域の一人ひとりがつながろう!

取組

- 日頃からの“声かけ”や“挨拶”で知り合いを増やす
- 子どもから高齢者までが、身近な場所で楽しみながら交流し、つながりができる居場所を増やす
- ラジオ体操、グラウンドゴルフ等のスポーツを通して、身近な場所で仲間と健康づくりを進める
- 声かけ、紙媒体、SNSなどを効果的に活用し、より広くまちを知ってもらう

目標2 地域みんなで支え合おう!

取組

- 防犯パトロールや住民同士の声かけなどで、見守りの輪、支え合いの輪を広げる
- 子どもから高齢者まで、多世代が継続して参加できる身近な機会をつくる
- 地域の各種団体や学校と関わりを持ち、防災、防犯に関する自助、近助、共助の意識を地域全体で育てる
- みんなが楽しく安心して外出できるまちをつくる

目標3 地域の絆を強めよう!

取組

- 楽しく安心して取り組めるような仕組みを増やす
- 得意なことに参加できる場を設けるなど、地域活動に関わる人を増やす
- 学校と連携を進め、子どもたちに「まち」のことを知ってもらう
- 様々な機会を通して、横のつながりをさらに深める

荏田地区

荏田地区は、古くは、大山街道の宿場町として発展しました。地区内には、東急田園都市線の江田駅があるほか、東名高速道路、国道246号線、旧大山街道などの交通の大動脈が通っています。地区全体では地域の活動団体が連携して、活発に地域行事を行っている一方、見守りや健康づくりといった新たな取組を自治会などの小さな単位でおこなっています。



地区内の町丁目 あざみ野南一丁目、あざみ野南二丁目、あざみ野南三丁目、あざみ野南四丁目、荏田北一丁目、荏田北二丁目、荏田北三丁目、荏田町（一部）

第4期計画の振り返り

- イベントによっては、年齢関係なく多くの人に参加したのもあり、新しい人に地域を知ってもらう機会になった。
- 子どもが参加するイベントは、親同士が仲良くなるきっかけになっている。
- 推進会議主催ウォーキングは、誰でも参加しやすく、団体同士のつながりも、もつことができた。
- スポーツ(グラウンドゴルフ、ポッチャ等)への取組が盛んになっている。
- 高齢化が進み、参加者・担い手ともに減っているため、イベントの周知と担い手の発掘が大事である。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員

担当地域ケアプラザ：荏田地域ケアプラザ

地域で行われている活動



推進会議主催ウォーキング



夏祭り



茶話会(モルック)

めざしたいまちの姿

「荏田っていいな」って言えるまち
 ~みんなが地域に愛着を持ち、
 安心して暮らせるまち~

目標1 住民どうしのつながりをつくろう!

取組

- 地域の誰もが参加できる、集いの場や祭りなど、地域活動を継続していく
- 地域の行事やまちの歴史など、もっと多くの人に知ってもらえるようにデジタル媒体を活用するなど、様々な方法で情報発信をする
- 「こころのふるさと」になるような、子どもの思い出をつくる
- 地域の様々な団体の交流を通して情報共有・意見交換を行う

目標2 スポーツや健康づくりに取り組もう!

取組

- 誰もが気軽に健康づくりができるよう工夫し、ウォーキングやグラウンドゴルフを継続していく
- ボッチャやモルックなど、みんなが参加できるスポーツを身近な場所で開催する
- サロンなどの活動の中で、健康をテーマにした取組を継続する
- 地域で行われている健康づくりの活動に多くの人に参加できるような広報の工夫をする

目標3 “助け合い”の輪を広げよう!

取組

- 日頃からお互いに助け合える関係をつくり、災害などに備える
- 地域の活動やご近所付き合いの中で様々な人の「思い」や「困りごと」を知る
- 様々な人の「思い」や「困りごと」を共有し、解決するために話し合いの場を持つ

荇田西地区

青葉区の東部に位置する閑静な住宅地で、青葉区の中でも、年少人口割合が高い地域であることが特徴です。世帯数は約5,000世帯、人口は約12,000人の地域です。地域の取組では、連合自治会主催の「ふるさとまつり」や地区社協主催の「もちつき大会」、ボランティア「えだにし学援隊」による登下校の見守り活動などがあり、身近な地域で子どもから高齢者までの住民同士の交流が活発に行われています。コミュニティハウス前庭に「憩いの広場」が設置されており、誰もが利用出来る場として活用されています。



地区内の
町丁目

荇田西一丁目、荇田西二丁目、荇田西三丁目、荇田西四丁目、荇田西五丁目

第4期計画の振り返り

- バス旅行やもちつき大会、ウォーキング等を通じて参加者とのつながりを増やすことができた。
- 公園でのラジオ体操は、健康増進だけでなく、「小さい単位」での絆作り、情報交換の場となり、活動が活発になった。
- 「憩いの広場」は、身近な場所で誰もが気軽に集える場所として、認知度が上がった。
- 地区社協の活動をお手伝いしてくださる「友の会」を発足し、現役世代をはじめ、誰もが自分のペースで参加しやすい運営の仕組みを進めている。
- 活動を広報誌やブログを通じて迅速に情報を発信することができた。
- 社会の情勢に合わせて、スマホ教室等を開催し、デジタル化を進めることが今後の課題である。



推進会議の主なメンバー

地区社会福祉協議会(連合自治会、単位自治会町内会、民生委員・児童委員、老人会)

担当地域ケアプラザ:ピオラ市ケ尾地域ケアプラザ

地域で行われている活動



ふるさとまつり



バス旅行



もちつき大会

めざしたいまちの姿

身近に知り合いが多く、 お互いが支え合えるつながりのあるまち

目標1 地域で知り合いが増える関係づくりと活動を進めよう!

取組

- 「ふるさとまつり」や「もちつき大会」などの多世代のイベントを通じて、参加者やスタッフが顔見知りとなり、一緒に活動する機会を増やす
- イベントをともに運営することを通じ、各団体が互いの情報を共有し連携した活動を深める
- 地区での取組に加え、各団体やサークル等での集まりがさらに活性化するように支援する
- ご近所で顔の見える関係づくりができるよう、公園でのラジオ体操等、新たな活動を加え、より身近な「小さい単位」での活動の機会を作る
- 「スマホ教室」等を開催し、デジタル化を進めることを通じて、関係づくりの強化を図る

目標2

子どもから高齢者、障がいのある方がいきいきと生活する 地域づくりを進めよう!

取組

- 学校と連携し、「えだにし学援隊」などの日常的な見守りとイベントでの交流を通じて、子どもの成長を地域全体で見守っていく
- 「憩いの広場(コミュニティハウス前庭)」などの身近な場所で誰もが気軽に集える機会を増やしていく
- 子どもから高齢者、障がいのある方が気軽に交流し、理解し合えるよう、ウォーキング・食事会を通じて地域の活動を進めていく
- 困りごとを抱えた方へ気づける機会を増やし、関係機関*と連携していく

目標3 誰もが自分らしく参加して、地域を支える活動を担っていこう!

取組

- 地域を支える団体と協力して、一緒に活動する仲間を互いに声掛けし、継続的に増やしていく
- 現役世代をはじめ、役割の分散を行い、誰もが自分のペースで参加しやすい安心・安全な運営の仕組みを工夫する
- 活動を広報誌やブログで広く伝え、担い手を増やす
- 活動の中で見出したアイデアや気づきを相談し、関係機関*に伝え、一緒に実現を図る

*関係機関:区役所、区社協、地域ケアプラザ、コミュニティハウス、福祉施設等

新荏田地区

新荏田地区は、昭和40年代に宅地開発され、その後自治会を組織し、自治会館を建設しました。最近では、若い子育て世代の転入者が増加傾向にあります。地区内では、普段からのあいさつを大切にし、お祭りや運動会等の行事を通して世代を超えた交流を図っています。また、公園で定期的に行われているラジオ体操&ハマトレは、住民同士の交流・見守りの場ともなっています。令和7年度には自治会館の改修が行われました。今後、この新たな自治会館を活用して今まで以上に住民同士の交流を図っていきます。



地区内の町丁目
荏田町(一部)

第4期計画の振り返り

- 夏祭り、運動会、もちつき大会、写真展等の行事には、子どもを含めて多くの地域住民が参加し、多世代交流の場となっている。
- 令和4年度より始まった「安否確認タオル掲示訓練」等、災害時に地域で助け合う仕組みづくりに取り組んだ。今後も地域住民の防災意識が更に高まるよう働きかけていく。
- ラジオ体操&ハマトレ、健康チェック等、住民の健康づくりに取り組み、住民同士の交流も進んだ。
- お困りさん・お助け隊、お弁当会、子育てサロン等により、地域で見守り合い、支え合っている。
- 地域の様々な行事、取り組みについて、転入者、若い世代を含めた地域住民にもっと積極的に周知していきたい。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、緑友会、青少年指導員
担当地域ケアプラザ：荏田地域ケアプラザ

地域で行われている活動



運動会



もちつき大会



ラジオ体操&ハマトレ

めざしたいまちの姿

お互いに声をかけ合い、
子どもから高齢者まで、
みんなを大切にするまち

目標1 地域に愛着を持ち、子どもも大人も世代を超えてつながろう!

取組

- 地域行事を通じて多世代が交流し、地域全体でつながろう(秋祭り、もちつき大会、公園清掃等)
- 様々な行事で子どもが活躍する場や地域住民と交流する機会を作ろう(運動会、公園清掃、子どもの居場所(図書館)づくり等)
- 多くの人に新荏田の魅力を知ってもらい、地域に愛着を持ってもらおう(写真展、転入者へのPR)
- 多様な広報手段により、新荏田の様々な行事や取組を多くの人に知ってもらおう(回覧板、掲示板、公式LINE、スマホ教室)
- 自治会館を気軽に利用してもらい、住民が集える場にしていこう(自治会館PR、図書館、開放デー、週末イベント)
- 住民同士で協力し合って安心・安全な新荏田を守っていこう(防犯パトロール)
- 災害時に助け合えるよう、日頃から住民同士でつながり、備えていこう(防災訓練、安否確認タオル掲示訓練、あおば災害ネット支え合いカード)

目標2 助け合いの輪を広げ、困った時に支え合える地域にしよう!

取組

- 趣味活動、サロン等を通じて住民同士がゆるやかに見守り合おう(ラジオ体操&ハマトレ、地区社協サロン、緑友会、サークル活動)
- ご近所さんの小さな変化に気づき、助け合っていこう(お困りさん・お助け隊、お弁当会)
- 子育ての悩みを気軽に相談できる機会を作り、子育て世代を見守っていこう(子育てサロン、誕生のお祝い、小学校との連携)

目標3 元気に住み続けられるよう、健康づくりを進めよう!

取組

- 一人ひとりが健康づくりや介護予防の機会を持とう(身体づくり教室、ポッチャ大会、健康チェック)
- 健康づくりを通したおしゃべりで心も身体も元気になろう(ラジオ体操&ハマトレ)

すすき野地区

すすき野地区は川崎市に隣接する区北西部に位置し、かつてはなだらかな丘陵地帯でした。現在は集合住宅と戸建住宅が立ち並んでいます。地域活動も活発で、「ふるさと祭り盆踊り大会」は、区内最大と言われています。ただ、少子高齢化は顕著で、特に高齢者の割合は区内でも高く、地域活動を推進する上で担い手不足が深刻な状況です。今後、横浜市営地下鉄あざみ野駅からの延伸に伴い、次世代の方々にとっても魅力ある生活拠点となるように、連合自治会を中心として「青葉区まちづくり計画」を受け「すすき野まちづくり」プロジェクトを推進しています。



地区内の
町丁目

美しが丘西三丁目（一部）、荻子田三丁目（一部）、すすき野一丁目・二丁目・三丁目、もみの木台、鉄町（一部）

第4期計画の振り返り

- コロナ禍が収束を迎え、2023年11月開催の「すすき野誕生50周年記念行事」を皮切りに、各地域行事が以前の状況に戻りつつある。住民の行事参加による、地域コミュニティが広がってきている。
- 地域コミュニティの場が拡大されることで、人と人の出会い〜つながりを深め、顔見知りが増えることで、生活環境が充実してきている。福祉・防犯・防災に対する「自助・共助・近助」が進むことを期待する。
- 地域の高齢化が進む中で、役員・担い手の負担軽減に向けた現在業務の見直し、改善・工夫を行い、団体毎に取り組んでいる。会議等でのITの取組・若い人の提案による行事への参加等、徐々にではあるが広がってきている。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員、地域福祉団体

地域で行われている活動



すすき野誕生50周年祭



ふるさと祭り盆踊り大会



すすき野防災フェア

めざしたいまちの姿

「住んでみたい」「住み続けたい」と
 思えるまち
 ～地域コミュニティに多世代が参加、
 和やかに安心して暮らせる～

目標1 魅力ある地域を目指して

取組

- 地域広報の充実
(地域の魅力を重点に情報発信を行い、情報を共有化する)
- 地域の魅力アップに取り組む
(地域行事の伝承を充実し、行事の新しい取組を取り入れる)

目標2 生活環境の充実

取組

- 植栽・清掃活動を通して、緑が多く綺麗なまちづくりを推進する
- 「見守り・安否確認」の活動を充実し、孤立させないまちづくりの推進を図る
- 災害時の「自助・共助・近助」の重要性を周知し、“人と人の繋がり”を深める
- 防災防犯意識を高め、自治会・町内会活動を通して地域の安全性を強化する

目標3 地域の交流を進めよう!

取組

- 交流の場所づくり
- 人と人のつながりを深める
- 誰もが参加したいと思える地域活動を行う

美しが丘地区

美しが丘地区は、青葉区の北東部に位置し、1960年代の開発当初から住民がまちづくりに積極的にかかわってきました。遊歩道や街路樹、公園などの地域資源をいかし、緑豊かで誰もが住み心地の良い地域をめざしています。地区活動では学校や商店街・企業と連携して様々な取組を進めているのも特徴です。また、盆踊り大会や桜まつり、防災イベントなどを地域全体で取り組むことで、住民や団体同士の“つながり”をつくっています。



地区内の
町丁目

美しが丘一丁目、美しが丘二丁目、美しが丘三丁目

第4期計画の振り返り

- 「子育て支援ライブ」や「子育てひろば」など子育てに関する活動をひろげることが出来た。
- 民生委員による高齢者を対象とした「美しが丘おたのしみ会」での交流を楽しみにしている人が多い。また地域での見守り活動としても、さらに充実をすすめている。
- 「美しが丘公園落ち葉清掃」は、活動が定着し、公園を利用する多くの団体が参加することによって交流が図れた。
- 移動販売が「買い物+交流の場」になるといい。買ったものを自宅まで届けるボランティアがいる。
- 20～50代の働き世代は、仕事や子育てが忙しいがイベントの参加者やボランティアも増えている。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員、老人クラブ、学校・地域コーディネーター、たまプラザ連合商店会、まちぐるみの子育て(子育て支援団体)

担当地域ケアプラザ:たまプラザ地域ケアプラザ

地域で行われている活動



子育て支援ライブ



美しが丘おたのしみ会



美しが丘公園落ち葉清掃

めざしたいまちの姿

「美しが丘」らしさにあふれたまち

(※)「美しが丘」らしさとは：

みんなが自分らしく自由で、自立した心豊かな暮らしをめざすこと。時には一人で、時には仲間と。互いにつながり、支えあう暮らし。

目標1 親も子どもも笑顔になる子育てができるまち

取組

- 子育て中の親が育児を少し楽に感じられるようなきっかけづくりに取り組む
- 子どもから高齢者まで多世代交流の取組を引き続き活発におこなう
- 地域での思い出作りを意識した季節のイベントを企画し開催する
- こどもの成長に応じた地域の居場所や交流の機会をつくる
- こどもを地域全体で見守り、親が安心を感じられる取組をおこなう

目標2 高齢者の「好き」が見つかるまち

取組

- 様々な活動の情報をわかりやすく周知する
- 交流の場を兼ねた健康づくりの取組をおこなう
- 外出が難しい人も参加できるよう工夫する
- 新しい趣味との出会いや自分の経験を活かせるような機会をつくる

目標3 まちを楽しむ仲間が集うまち

取組

- 住民同士のつながりが持てるような場所・機会をつくる
- 活動団体が情報共有し、地域のことについて話し合い、ネットワークを広げる
- お祭り等を楽しみながら、新たな担い手を増やしていく
- 地域に根付いた行事等を継続していく